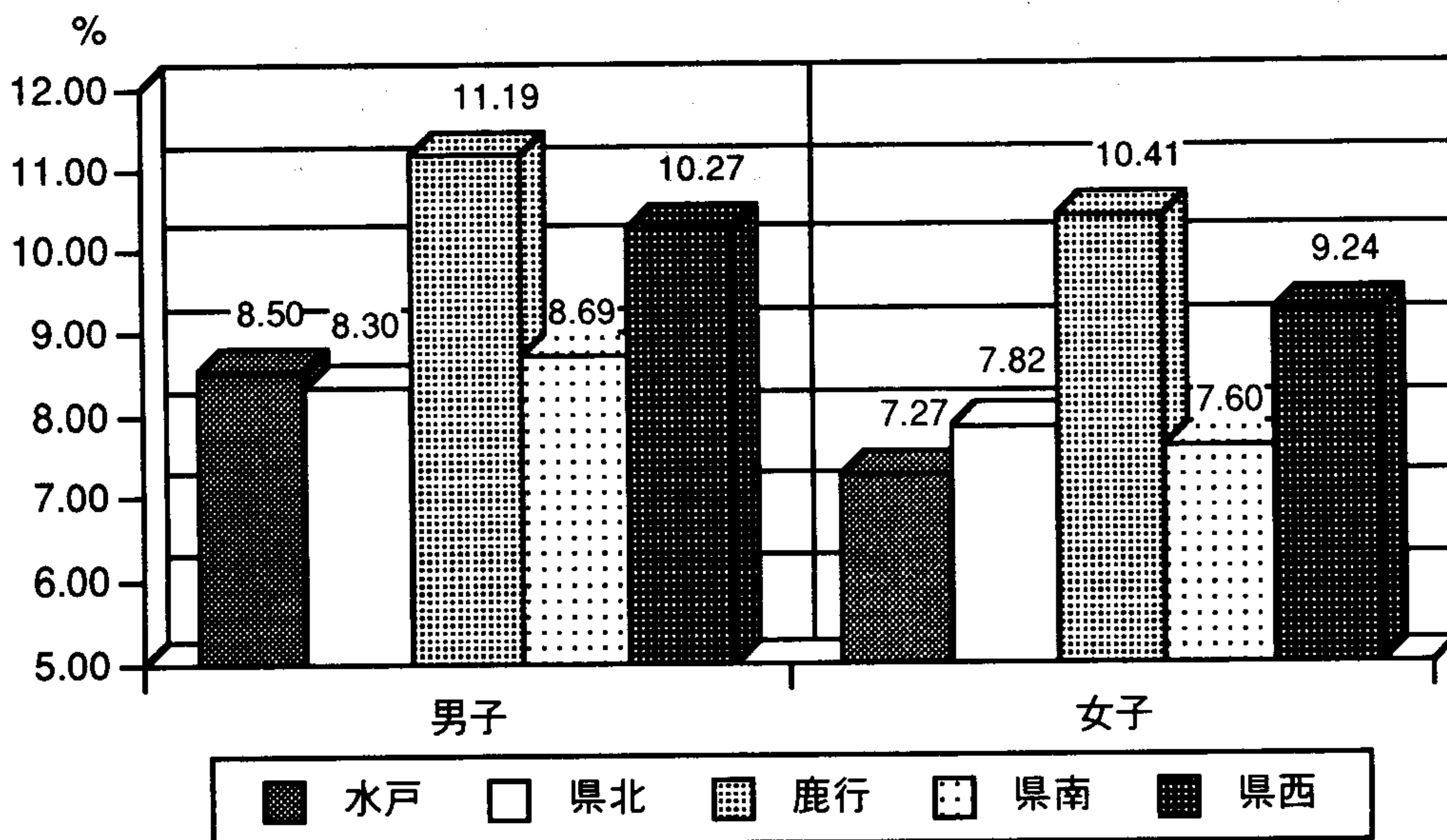
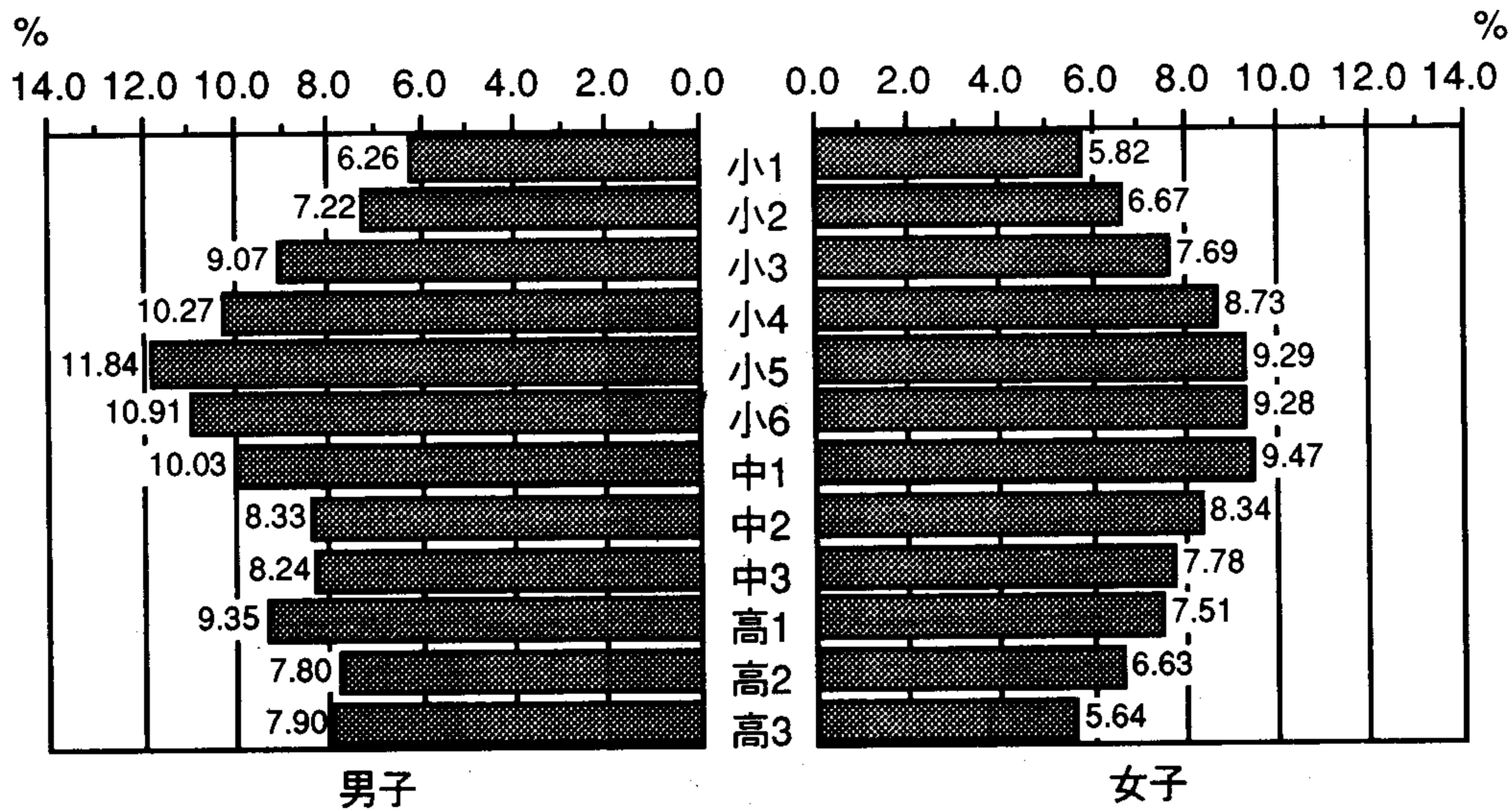


肥満傾向児童生徒の出現率

肥満・痩身傾向判定による肥満傾向児は男子9.0%，女子7.8%

- 肥満・痩身傾向判定による肥満傾向児は男子8.99%，女子7.80%であった。
- 肥満傾向児は男女とも小学校では学年が進むにつれ増加する傾向を示した。男子における出現率のピークは小学校5年（11.84%），女子の出現率のピークは中学校1年（9.47%）であった。
- 地区別に出現率を比較すると，男女共に鹿行地区の出現率が最も高く（男子11.19%，女子10.41%），次いで県西地区（男子10.27%，女子9.24%）であった。逆に最も低いのは男子では県北地区（8.30%），女子では水戸地区（7.27%）であった。

資料65 学年性別の肥満傾向児童生徒数 「肥満・痩身傾向判定」120%以上
 茨城県教育研修センター，「肥満・痩身に関する指導の手引」，1994



肥満傾向児童生徒の出現率

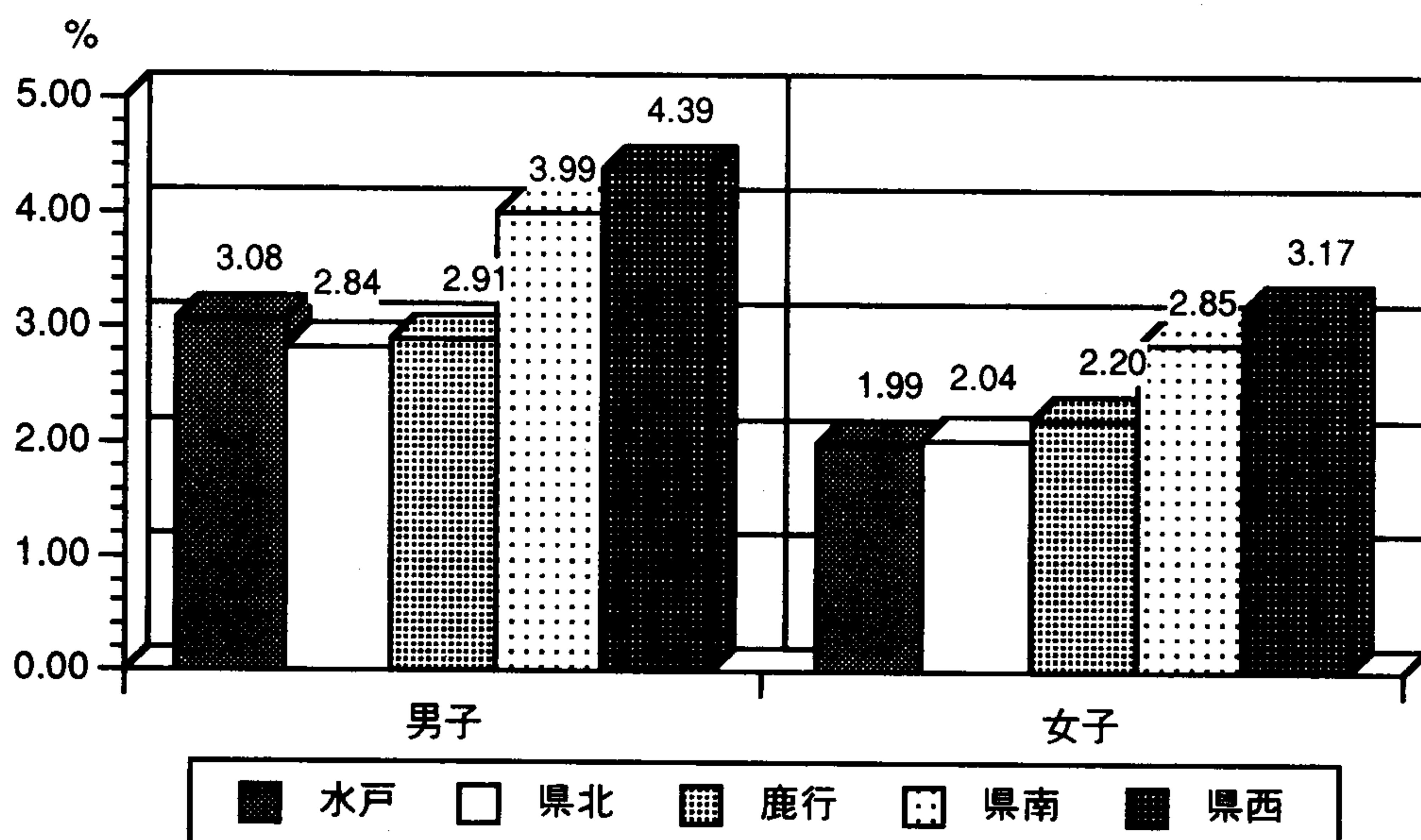
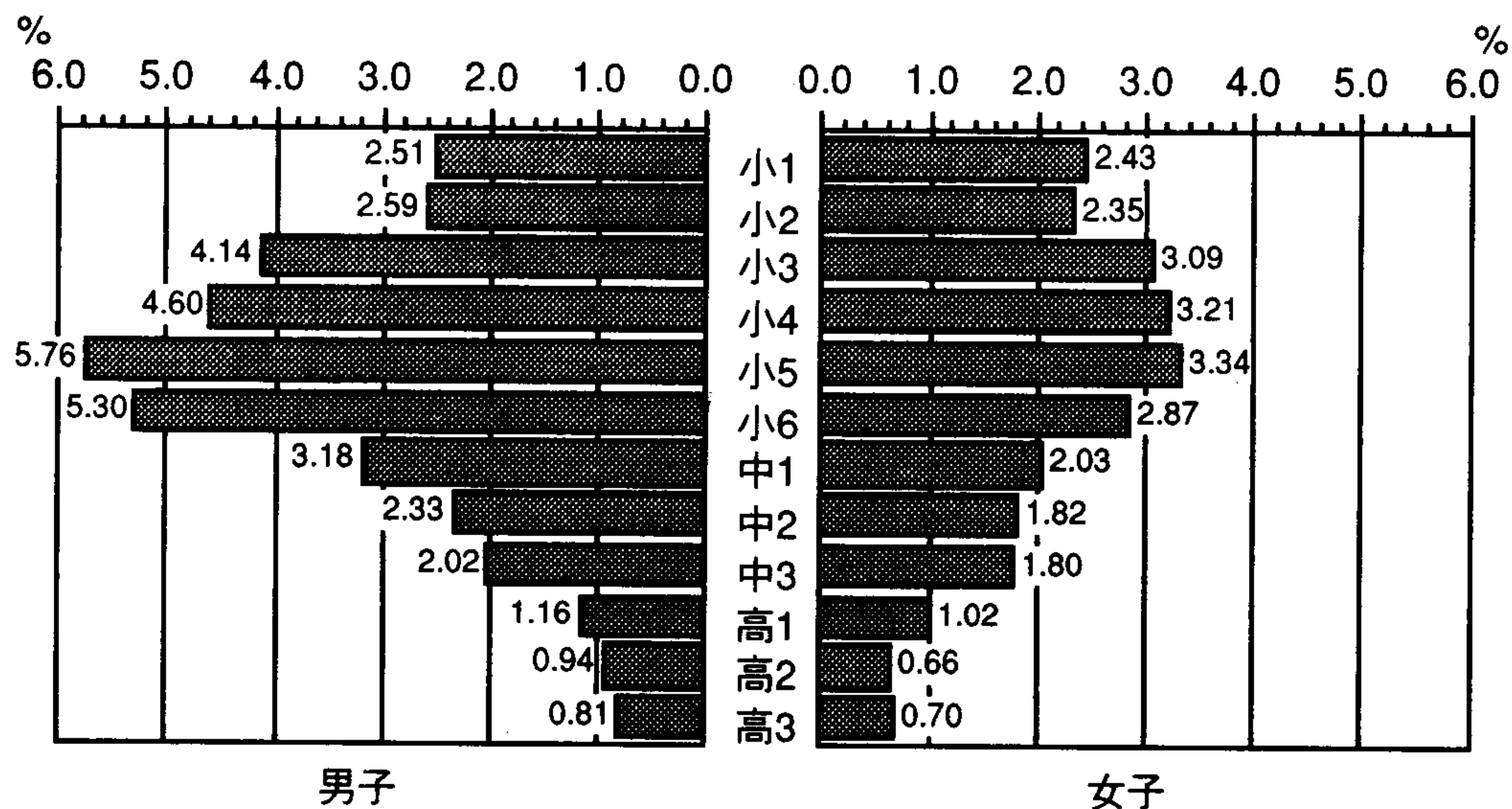
健康診断による肥満傾向児は男子3.0%，女子2.2%

- 健康診断による肥満傾向児は男子3.04%，女子2.15%であった。肥満・痩身傾向判定による肥満傾向児のうちおよそ3分の1が健康診断によってさらにスクリーニングされたことになる。
- 肥満傾向児は男女とも小学校では学年が進むにつれ増加する傾向を示した。出現率のピークは男女とも小学校5年で男子5.76%，女子3.34%であった。そ

- れ以降男女とも減少する傾向を示し、男女とも高校生では1%に満たない割合になった。
- 男女を比較すると小学校3年生から中学1年生の間男子の出現率は女子より1.5倍程度高かった。
- 地域別に出現率を比較すると、男女共に県西地区が最も高く（男子4.39%，女子3.17%）、次いで県南地区（男子3.99%，女子2.85%）の順であった。

資料66 学年性別の「健康診断」による「栄養要注意 肥満傾向」児童生徒数

茨城県教育研修センター、「肥満・痩身に関する指導の手引」，1994



痩身傾向児童生徒の出現率

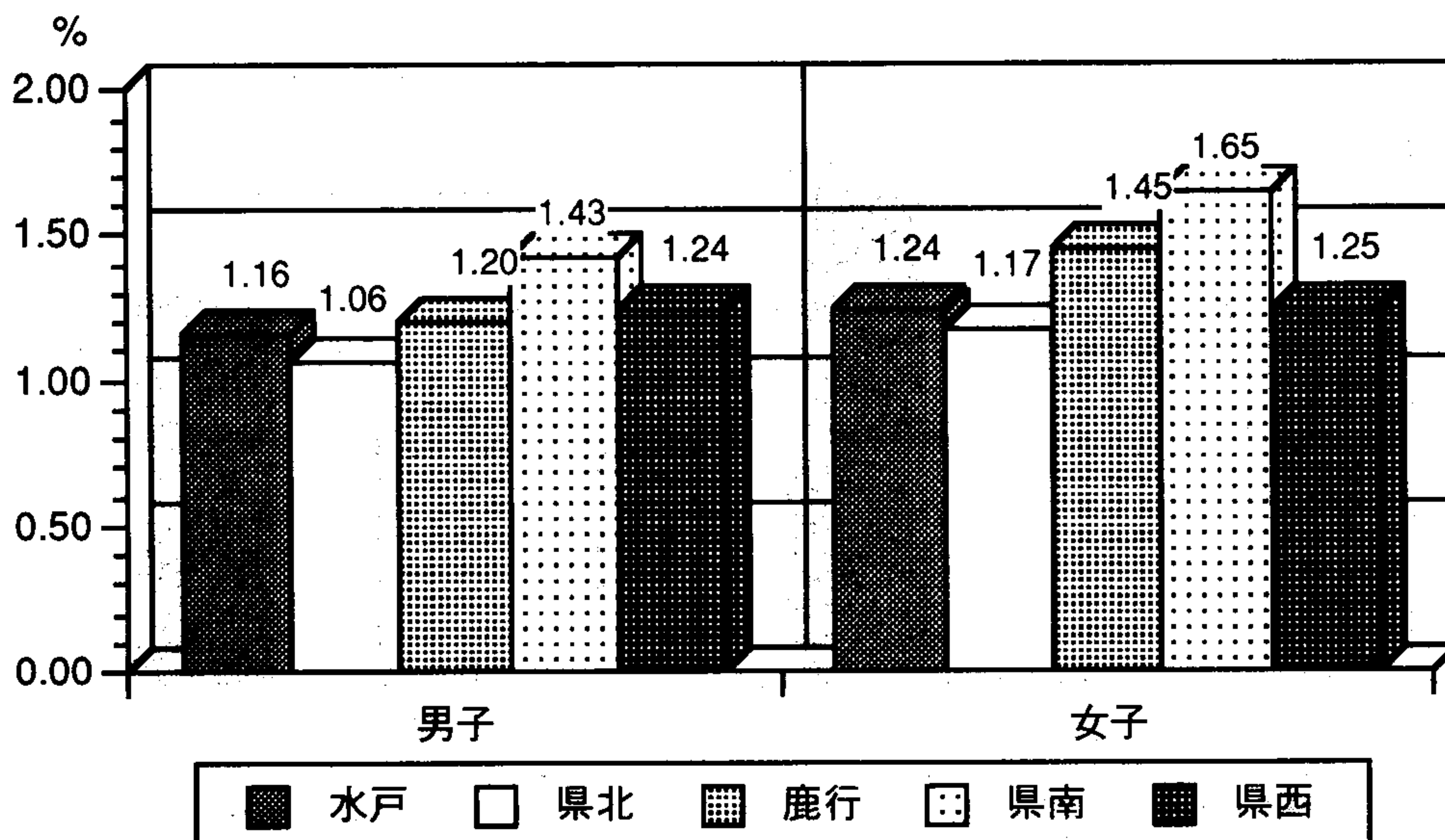
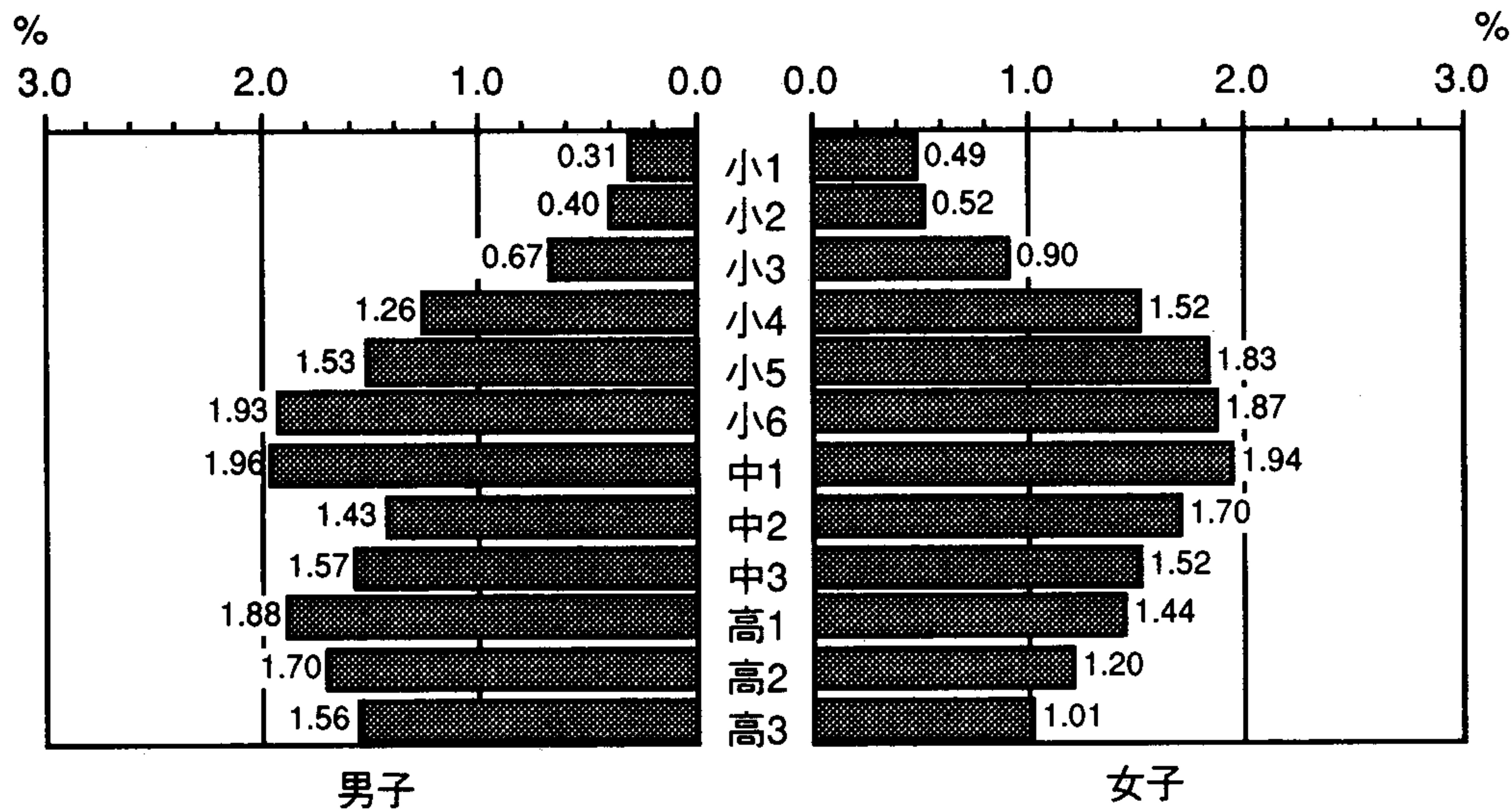
肥満・痩身傾向判定による痩身傾向児は1.4%

- 健康診断による痩身傾向児は男女とも1.35%であった。これは肥満傾向児の出現率のおおよそ6分の1であった。
- 肥満傾向児は男女とも小学校では学年が進むにつれ増加する傾向を示し、出現率のピークは男女とも中学校1年で、男子1.96%、女子1.94%であった。それ以降女子は学年が進むにつれ減少する傾向を示し

- たが、男子は高校生1年生で1.88%に増加した。
- 地域別に比較すると、男女共に県南地区が最も高く（男子1.43%、女子1.65%）、逆に最も低いのは県北地区（男子1.06%、女子1.17%）であった。しかし、地域差は肥満傾向児の出現率と比較して相対的に小さかった。

資料67 学年性別の痩身傾向児童生徒数 「肥満・痩身傾向判定」80%以上

茨城県教育研修センター、「肥満・痩身に関する指導の手引」、1994



痩身傾向児童生徒の出現率

健康診断による痩身傾向児は男子0.17%，女子0.16%

- 健康診断による痩身傾向児は男子0.17%，女子0.16%であった。肥満・痩身傾向判定による肥満傾向児のうちおよそ12分の1が健康診断によってさらにすクリーニングされたことになる。
- 痩身傾向児は男女とも小学校では学年が進むにつれ増加する傾向を示した。出現率のピークは男子では中学校2年（男子0.30%）、女子は小学校6年（0.33%）であった。それ以降男女とも減少する傾向を示し、男女とも高校生では0.1%に満たない割合になった。
- 男女を比較すると小学校3年生から中学1年生の間男子の出現率は女子より1.5倍程度高かった。
- 地域別に出現率を比較すると、男女共に県南地区が最も高く男女とも3.17%であった。

資料68 学年性別の「健康診断」による「栄養要注意 痩身傾向」児童生徒数

茨城県教育研修センター、「肥満・痩身に関する指導の手引」，1994

